

# 保育者の意図・願いを見据えた実習日誌の 記録の試み

児童学科 阿部直美・村井尚子

抄録：子どもとともにある日常の実践において、保育者は常にどうすることが子どもにとっての善であるかを考えている。言い換えれば、教師として子どもの前にあるとき、保育者の行為にはつねにすでに教育的な意図と願いが含まれているといえる。この意図と願いは、保育者の専門性に深く関わるものである。それゆえ、実習生にとって、子どもに対する保育者のあらゆる行為の中に必ず教育的な意図と願いが存しているということを知ることが非常に重要である。筆者らは、実習日誌の記述欄の中に、「保育者の意図・願い」という欄を新たに設けた。この研究の目的は、「保育者の意図・願い」欄の存在によって、実習生の子ども理解、保育者の行為の意味の理解、保育者の意図と願いへの理解にどのような影響を与えているかを実習日誌の記述の分析を通じて検証することにある。この欄を記述することによって、実習生は保育者の意図・願いに気づくことができるようになったということが明らかに出来たものと考えられる。

キーワード：保育者の意図・願い 幼稚園教育実習 保育者の専門性 実習日誌 子ども理解

## 1 研究目的

1989年改訂の幼稚園教育要領以降、幼児教育は「環境を通して行う教育」という点が強調されている。この環境を通して行う教育は、幼児の主体性と教師の意図とがバランスよく絡み合うことによって成り立つものである。保育者は、日々の保育実践において、一人ひとりの、あるいは集団としての子どもの現在の発達の姿やその日の状態を把握し、個々の子どもの願いを理解した上で、望ましい方向に向かって子どもの発達を促すことを意図して、環境構成を行う際に教育的価値を環境の中に含ませている。さらに、環境にかかわって遊ぶ個々の子ども、集団としての子どもたちに対して、教育的意図に基づく指導や言葉かけ、対応といった配慮を行っている。

ここで言われる「教育的意図」は、保育者の専門性に深くかかわり得るものである。和田は、教育を「望ましいよい人間の在り方に向かって子ど

もが発達するように援助すること」と規定する<sup>(1)</sup>。保育者が子どもに向けて何らかの配慮を行うとき、そこには、必ず何らかの「この子ども、あるいは子どもたちにとってどのような配慮を行うことが望ましいのか」という「教育的」な意図が、意識的なかたちにせよ、無意識のうちにせよ、存在していると見ることができるのである。そして、この、「どうすることが、子どもにとって望ましいのか」を、深い子ども理解に基づいて判断し得るところに、保育者の専門性が存しているのである。

それゆえ、保育者を目指す学生にとって、大学における理論的な学びを踏まえた上で、幼稚園教育実習に参加した際に、実践の場で実際に保育者たちがどのように子どもを理解し、子どもの育ちに対してどのような願いや意図をもってこうした環境構成や配慮を行っているかを捉えることが、保育者としての専門的資質を身につける重要な要素となるといえる。

幼稚園教育実習においては、実習に参加して子どもと保育者のかかわりを観察し、日々の記録をとる観察記録が課されていることが多い。例えば、遠藤は、実習指導に用いられているテキスト『実習日誌の書き方』のなかで、見学・観察実習時の記録の取り方として、a. 今日の実習のねらい、b. 時間、c. 子どもの活動、d. 保育者の援助・留意点、e. 実習生の動き・気づき f. 感想・反省の欄を設け、それぞれに記入することを示している。そして、d. の「保育者の援助・留意点」の欄には、「単に保育者がどのように動いたのかという行動だけを書くのではなく、保育者の援助や行動の意味やねらい（留意点）を読み取って、記述していく<sup>(2)</sup>」としている。観察記録を取る上で、「援助や行動の意味やねらい（留意点）」に着目することが重視されているのである。

筆者らは、これを受け、「保育者の意図・願い」という欄を実習日誌に新たに付け加える試みを行っている。記述欄を設けることで、実習生は、実習日誌に記述することを意識し、観察実習の際に「保育者の意図・願い」という視点をもって、子どもと保育者とのかかわり、保育者の援助と留意点、保育の場における環境構成を見据えることになると考えたからである。

本研究では、「保育者の意図・願い」欄における実習生の記述を検討する。実習生が、保育を観察するうえで、「保育者の意図・願い」をどのような観点から読み取っていたかを明らかにし、新たに設けられたこの「保育者の意図・願い」欄への記述を通して、実習生の子どもも理解、保育者の意図・願いに対する理解の深まり、保育者の保育に対する深い思いへの洞察が可能になっていることを記述事例の検討を通して実証的に示していくことを意図している。

## 2 研究方法

○対象学生 ○女子大学4回生のうち幼稚園

教育実習を履修した学生 126名

○期間 2007.9.1（あるいは9.3）～  
2007.9.31

○対象年齢 3歳児 40名 4歳児 34名  
5歳児 46名  
3・4・5歳児 6名（3・4・5歳児の縦割り保育を行っている幼稚園での観察実習）

○方法

学生は、「保育者の意図・願い」欄を設定した実習記録用紙「観察実習記録 A」を使用し、観察記録を記入する。

学生には、3年時履修の「幼児教育課程論」の時間内に、吉村らのテキストを用いて、「保育者の意図・願い」という概念の説明を行った。さらに、テキストに則って、岩波保育ビデオシリーズ「幼児とのかかわりを考えるシリーズ④新しい生活がはじまって」17分～19分を見せ、保育者の「部屋に入るように」促す9つの異なる表現の背景にある「子どもの気持ちを受けとめつつ、子どもを保育者の向かわせたい方向に導こうとしている意図」の存在に気づくよう努めた<sup>(3)</sup>。

次に、4年時の「幼稚園教育実習の事前事後の研究」の授業時間を用い、「保育者の意図・願い」欄の趣旨と、記述の仕方を、O女子大学附属幼稚園において撮影したオリジナルのVTRを用いながら、説明し、記述の練習を行った。

また、実習先の各幼稚園には、この欄を新設した趣旨を文書にて説明した。配慮・留意点の記述において、学生が「保育者の意図・願い」を踏まえて記述できるようになると想定されるおおむね1週間（土・日曜日を除く5日間）は、この記録用紙を使用して指導していただくようお願いした。その後は、「保育者の意図・願い」欄を除いた「観察実習記録 B」を使用していただいた。「観察実習記録 A」の記録様式は以下の通りである。

日、年齢、園児数、天候、指導教諭名				
今日のねらい				
幼児の姿				
内容		観察のポイント		
時間	環境構成・教材・用具	幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
観察で気づいたこと・学んだこと				
指導助言				

観察実習記録 A

### 3 結果と考察

(1) 観察実習記録 A の使用期間は、おおむね 5 日間とするように実習生に事前に指導し、実習園にもお願いしていたが、使用期間としては、5 日間というものが 62% を占め、圧倒的に多かった。しかし、全く使用していない学生も 24 名 (19%) みられた。これは、実習を受けて入らせていただいている実習園のご意向も反映されているものと思われる。

観察実習記録 A 使用期間

0日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日
24名	4名	3名	2名	4名	78名	3名	7名	1名

(2) 「保育者の意図・願い」の場面別記述内容  
観察実習記録 A における記述を、〔1〕登園・朝の挨拶の場面〔2〕身の回りの始末・片付けの場面〔3〕弁当・給食の場面〔4〕自由遊びの場面〔5〕設定保育の場面の 5 場面に分けて、それぞれの場面において「保育者の意図・願い」が実習生にどのように把握されているかを調べるために、カテゴリー分析を行った。

〔1〕登園・朝の挨拶の場面における「保育者の意図・願い」カテゴリー分析（複数記述）

大きな声で挨拶する…48名

元気に挨拶する…39名

顔をみて（目をみて・保育者の方をみて）挨拶する…9名

元気に一日を過ごす（元気に明るく一日過ごす・新しい一日に期待を持つ）…7名

挨拶することの心地よさを味わう（感じる・知る）…7名

自分から進んで挨拶する…4名

恥ずかしがらずに挨拶する…4名

親しみを持って挨拶する…4名

笑顔で挨拶する…4名

挨拶の大切さに気付いてほしい…4名

友達と挨拶する…3名

挨拶する習慣をつけてほしい…3名

丁寧に（しっかりと）挨拶する…2名

挨拶することでコミュニケーションを取り友達関係を深めてほしい…1名

実習生は、登園・朝の挨拶の場面における保育者の子どもへの言葉かけ、配慮を観察し、以上のような意図・願いを読み取っている。これを大別すると、「大きな声で挨拶する」「顔をみて挨拶する」等、挨拶の方法、具体的な仕方についての意図・願いと、「挨拶することの心地よさを味わう」等、挨拶することによって感じてほしいこと、気

づいてほしい気持ちについての意図・願いが観察されていることがわかる。

(2) 身の回りの始末・片付けの場面における「保育者の意図・願い」のカテゴリー分析（複数記述）

自分のことは自分です（自分の荷物を自分で整理整頓する・自分で持ち物の整理をする・自分で準備する・自分で整理する・自分の持ち物は自分で始末する・自分で着脱する・自分の物は自分で片付ける・自分の力で身支度する等）…49名

協力して片付ける（友達と協力する・みんなで片付ける）…12名

自分から進んで身の回りの始末をする、片付ける…10名

少しずつ、できるだけ自分です（ひとりでやろうとする）…8名

自分のことは自分で整頓する習慣がつく（身につける）…5名

自分が使った以外の物も片付ける…5名

責任もって（人任せにせず）最後までする…4名

きちんと、丁寧に…4名

片付ける心地よさを味わう（片付けることにより気持ち良いと感じる）…3名

集中して、落ち着いて持ち物の始末をする…2名

片付けの大切さを知る…1名

自分で忘れ物に気付く…1名

物を大切に…1名

自分で忘れ物を保育者に伝える…1名

自分でできる喜びを知ってほしい…1名

以上のように、身の回りの始末・片付けという基本的な生活習慣にかかわる場面においては、「自分のことは自分です」という身辺自立に関する意図・願いの記述が圧倒的に多かった。また

(1) 登園・朝の挨拶の場面と同様に、「きちんと、丁寧に…」等片付けの方法についての意図・願いと、「片付ける心地よさを味わう」等、片付けることによって感じてほしいこと、気づいてほしい気持ちについての意図・願いも観察されている。

(3) 弁当・給食の場面における「保育者の意図・願い」カテゴリー分析（複数記述）

楽しく食べる（食事を楽しむ）…31名

残さず食べる…22名

食べ物、食事に感謝する（食べ物を粗末にしない気持ちをもつ）…11名

マナーを守って食べる（こぼさずに食べる・箸をじょうずに使えるようになる・お椀を手でささえて食べる・行儀よく食べる）…8名

好き嫌いせずに食べる（嫌いなものも頑張って食べる・苦手な食べ物に挑戦する）…7名

たくさん食べる…6名

食事の挨拶をする…5名

友達と会話を楽しみながら食べる…5名

友達と（皆と）一緒に食べることを楽しむ…5名

明るい（楽しい）雰囲気でする…3名

午前保育のため、弁当・給食無し…15名

平成20年3月告示の新しい幼稚園教育要領において、領域「健康」の内容(5)に「先生や友達と食べることを楽しむ」として食育に関する規定が新設されたが、実習生が理解した保育者の意図・願いにおいても、「楽しく食べる」「友達と一緒に食べることを楽しむ」等、まず楽しくという点が多くみられた。また、「残さず食べる」「食べ物、食事に感謝する」といった「いのちの教育」に通底する食育も意図されていることがわかる。

(4) 自由遊びの場面における「保育者の意図・願い」カテゴリー分析（複数記述）

好きな遊び（やりたい遊び・したい遊び）をみつけて遊ぶ…34名

友達と一緒に遊ぶ（友達と仲良く遊ぶ・友達と喧嘩せず遊ぶ・みんなで仲良く遊ぶ）…24名

元気よく遊ぶ（身体をしっかりと動かして遊ぶ・のびのびと遊ぶ）…12名

安全に遊ぶ（怪我のないように遊ぶ）…8名

ルールを守って遊ぶ（きまりを守って遊ぶ・順番を守って遊ぶ）…7名

玩具、遊具を仲良く使用して遊ぶ（遊具をみんな

で譲り合って遊ぶ・おもちゃを共有して使う)…7名  
 異年齢の友達ともかかわって遊ぶ…6名  
 思いっきり遊びを楽しむ(遊びを十分に楽しむ・  
 遊びを集中して楽しむ)…6名  
 自然と触れ合って遊ぶ…4名  
 遊びを発展させて遊ぶ…4名  
 友達に自分の気持ちを伝えて、友達の気持ちも聞  
 いてほしい(相手の気持ちが想像できるように  
 なってほしい・自分の思いを言葉で表現してほしい)…  
 4名  
 友達と一緒に活動する楽しさを感じる(仲間とい  
 ることの楽しみや喜びを感じる)…3名  
 友達に対して思いやりを持って遊ぶ…1名  
 自分で問題を解決できる力を持ってほしい…1名  
 興味を持った事、物に感動する気持ちを大切にし  
 てほしい…1名  
 友達との会話を楽しみながら遊ぶ…1名

「好きな遊びをみつけて遊ぶ」「思いっきり遊び  
 を楽しむ」等好きな遊びを十分遊び、十分楽しんで  
 欲しいという意図・願いと、「友達と仲良く遊  
 ぶ」等友達とかかわって遊び、楽しんで欲しいと  
 う遊びを通しての人間関係の育成にかかわる意  
 図・願いが多く観察されている。

#### (5) 設定保育の場面における「保育者の意図・ 願い」のカテゴリー分析

設定保育の場面は、多岐にわたっている。例え  
 ばリレー遊びの設定保育の場面では、それぞれ、  
 「運動会の気分を味わい、期待を持つ」「ルールを  
 守ることを知る」「友達を応援する」「勝ち、負け  
 を知る」「協力して片付ける」という「保育者の  
 意図・願い」がみられた。このようにこの場面  
 では、多様な「保育者の意図・願い」が記述され  
 ており、カテゴリー化することが困難であったため、  
 今回の分析からは省いている。

#### (3) 「保育者の意図・願い」記述内容の対象年 齢別比較

上記(2)の具体的記述例の項目を対象年齢別に

見てみると、「登園・朝の挨拶」の場面、「身の回  
 りの始末・片付け」の場面、「弁当・給食」の場  
 面において、以下のように年齢による差異が見出  
 された。

#### (1) 「登園・朝の挨拶」の場面

項目	年齢(歳児)			
	3	4	5	345
大きな声で挨拶する	15	16	16	1
元気に挨拶する	16	6	13	4
顔をみて(目をみて)挨拶する	2	2	5	
元気に一日を過ごす	2	1	2	1
挨拶することの心地よさを味わう	4	1	3	
自分から進んで挨拶する	1	1	2	
恥ずかしがらずに挨拶する	1	2	1	
親しみを持って挨拶する	2	0	2	
笑顔で挨拶する	0	1	3	
挨拶の大切さに気付いてほしい	1	2	0	1
友達と挨拶する	1	1	1	
挨拶する習慣をつけてほしい	0	2	1	
しっかりと挨拶する	1	0	1	
挨拶することでコミュニケーションを取 り友達関係を深めてほしい	1	0	0	

3歳児での記述が多かった項目としては、「挨  
 拶することの心地よさを味わう」がある。3歳児  
 では、挨拶の仕方ではなく、まず挨拶することの  
 心地よさ、気持ち良さに気付いてほしいという保  
 育者の意図・願いがあことに気づいている。

4歳児での記述が多かった項目としては、「挨  
 拶の大切さに気付いてほしい」「挨拶する習慣を  
 つけてほしい」がある。3歳児において挨拶の心  
 地よさや気持ちよさを体験したことを踏ま上で、  
 その大切さに気づき、毎日の習慣としてほしいと  
 う保育者の意図・願いがあことに気づいたことが伺える。

これに対して、5歳児での記述が多かった項目  
 としては、「顔をみて挨拶する」「笑顔で挨拶する」  
 であった。5歳児では、3・4歳児における経験も  
 とに、さらに具体的な仕方や方法についても習

得てほしいという保育者の意図・願いを、実習生が観察していることが分かる。

[2]「身の回りの始末・片付け」の場面

項目	年齢(歳児)			
	3	4	5	345
自分のことは自分でする	16	14	15	4
協力して片付ける	4	0	7	1
自分から進んで身の回りの始末をする、片付ける	5	2	3	
少しずつできるだけ自分でする	7	1	0	
自分で整頓する習慣がつく	1	3	1	
自分が使った以外の物も片付ける	5	0	0	
責任もって、最後までする	0	1	2	1
きちんと丁寧にする	2	2	0	
片付ける心地よさを味わう	1	1	1	
片付けの大切さを知る	1	0	0	
自分で忘れ物に気付く	0	1	0	
物を大切にすることを意識を持つ	0	0	0	1
自分で忘れ物を保に伝える	0	0	1	
自分でできる喜びを知る	1	0	0	

3歳児での記述が多かった項目としては、「少しずつ自分でできるようになる」「できるだけ一人で身の回りの始末をする」「身支度を自分でできるようにする」「自分が使った以外の物も片付ける」がある。また、上記の他に1名ではあるが、「片付けの大切さを知る」「自分でできる喜びを知る」の記述も3歳児のみにみられた。まず自分でできることに保育者の意図・願いがあると実習生は読み取っている。

4歳児での記述が多かった項目としては、「自分で整頓する習慣がつく」がある。やはり「登園・朝の挨拶の場面」と同じく、3歳児での経験を踏まえた上で、そのことが習慣として体得できるよう保育者の意図・願いがあることに気づいていることが伺える。

これに対して、5歳児での記述が多かった項目としては、「協力して片付ける」「友達と協力して

片付ける」「全員で協力して片付ける」「友達にも声をかけて協力して後片付けをする」の記述があった。5歳児になると自分でするだけでなく、クラスの一員としてすべきことを認識したり、友達にも積極的に働きかけたりして欲しいという保育者の意図・願いがあることを実習生は理解している。3歳児での記述が多かった「少しずつできるだけ自分でする」「自分が使ったもの以外の物も片付ける」という記述が5歳児では、全くみられず、この場面は、年齢差が著しかったといえる。

[3]「弁当・給食」の場面

項目	年齢(歳児)			
	3	4	5	345
楽しく食べる	10	10	8	3
残さず食べる	8	5	8	1
食べ物、食事に感謝する	1	4	4	2
マナーを守って食べる	6	0	2	
好き嫌いせず食べる	2	0	5	
たくさん食べる	4	0	2	
食事の挨拶をする	3	1	1	
友達と会話を楽しみながら食べる	1	0	4	
友達と一緒に食べることを楽しむ	2	1	2	
明るい雰囲気でする	1	2	0	

3歳児での記述が多かった項目としては、「マナーを守って食べる」「食事の挨拶をする」となり、3歳児では、食に関する基本的な生活習慣、正しい食事の仕方を身につけてほしいとの保育者の意図・願いが伺える。

4歳児・5歳児での記述が多かった項目としては、「食べ物、食事に感謝する」となり、弁当・給食を食べると同時に、食べ物、食事に対する感謝の気持ちをもってほしいという保育者の意図・願いを把握できている。

5歳児での記述が多かった項目としては、「好き嫌いせず食べる」「友達と会話を楽しみながら食べる」があり、5歳児では、身体の健康のためにも食事の大切さに気づいてほしい、また食事を

より充実できるよう雰囲気も大切であることにも気づいてほしいという保育者の意図・願いがあることを実習生が理解している。

#### [4]「自由遊び」の場面

項目	年齢(歳児)			
	3	4	5	345
好きな遊びをみつけて遊ぶ	10	10	14	
友達と一緒に遊ぶ	8	6	9	1
元気よく遊ぶ	4	5	3	
安全に遊ぶ	4	1	3	
ルールを守って遊ぶ	3	2	2	
玩具、遊具を仲良く使用する	5	1	1	
異年齢の友達とも遊ぶ	2	2	2	
思いっきり遊びを楽しむ	2	1	2	1
自然と触れ合って遊ぶ	1	2	1	
遊びを発展させて遊ぶ	1	0	3	
友達に自分の気持ちを伝えて友達の気持ちも聞いてほしい	2	1	1	
友達と一緒に活動する楽しさを感じる	1	1	1	
思いやりを持って遊ぶ	0	1	0	
自分で問題を解決できる力を持つてほしい	0	1	0	
興味を持った事、物に感動する気持ちを大切にしてほしい	0	0	1	
友達との会話を楽しみながら遊ぶ	1	0	0	

3歳児での記述が多かった項目としては、「玩具・遊具を仲良く使用する」があり、自由遊びの中で子ども同士の玩具の取り合いがよくみられることから、実習生はそのような状況を見て、保育者の意図・願いを考えたものと伺える。

5歳児での記述が多かった項目としては、「遊びを発展させて遊ぶ」があり、これは5歳児における、様々な発想やたくましい遊びの様子をみるにより気づいたと思われる。しかし全体的には、自由遊びの場面においては、保育者の意図・願いの年齢による大きな差異は見られなかった。

以上 [1] から [3] の生活に関わる場面に関して

は、年齢に応じて「保育者の意図・願い」の内容が異なっていることに多くの実習生が気づくことが出来ている。また3歳から5歳への成長と合わせて「保育者の意図・願い」も変化しており、その年齢にふさわしい、その年齢でこそ気づき、学んで欲しい内容となっており、実習生の子ども達や保育者をみる目が養われている様子が理解できる。

これに対して自由遊びの場面においては、年齢による大きな差異は見られなかった。これは、様々な理由が考えられると思われる。次回の機会に分析していきたい。

#### (4)「保育者の意図・願い」と「配慮・留意点」「環境構成」「観察で気づいたこと・学んだこと」欄の記述との関係

それでは、「保育者の意図・願い」という欄に記述を行うことにより、実習生は詳細に保育を観察しその意義を理解することができたのであろうか。ここでは、「配慮・留意点」および「環境構成」「観察で気づいたこと・学んだこと」欄における実習生の記述事例を検討することによって、保育者の教育的意図への実習生の理解が深まったことを示したい。

##### ① 子ども達の実際の姿を観察し、子どもの思いに寄り添うことの大切さに気づくことができた事例

「保育者の意図・願い」について考えるということは、保育者が考える「望ましい子どもの姿」を知ることには留まらない。なぜなら、保育者は、一人ひとりの子どもの姿、集団としての子どもたちの姿をしっかりと観察し、把握することによって、子どもの思いに気づき、その思いに寄り添うことによって、その時その時の時期に応じた配慮、環境構成を行っているからである。大沼らは、「保育者に求められる姿勢として、まず保育者にはあるがままの子どもを受容し、子どもの気持ちに対して敏感に共感する姿勢が求められる」とする<sup>(4)</sup>。

以下に、「保育者の意図・願い」を見据えることにより、「一人ひとりの子どもをよくみる」「子どもの思いに気づく」「子どもの目線に立つ」ことができるようになってきたと考えられる事例を挙げていきたい。

(具体的事例A)「登園・朝の挨拶の場面」 記述日9/4  
4歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○登園する ・朝の挨拶をする	元気に挨拶する	一人一人と挨拶を交わし、会話をしたりして、気持ちの良いスタートになるよう心がける
観察で気づいたこと・学習したこと		
きょうは、2学期初日だったせいか、元気に挨拶する子もいれば、挨拶できない子、気持ちを込めない子、下を向いて元気がない挨拶の子など様々でした。そんな子ども達に笑顔で優しく、子どもの目の高さに合わせて、保育者から挨拶することや、一人一人に言葉がけをして子ども達の緊張をほぐすことが大切だと気づきました。		

Aの事例より、記述者が、まず個々の子ども達の朝の挨拶の様子をしっかりと観察できていることがわかる。そして、そんなひとりひとりの子ども達の様子を把握した上で、ひとりひとりの子どもに合わせた対応を心がけようとする保育者の配慮の大切さに気づき、そのことが「元気に挨拶してほしい」という意図・願いにつながってくるということが理解できている事例であるといえよう。

(具体的事例B)「弁当・給食の場面」 記述日9/10 5歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○昼食を 食べる	食事が出来ることへの感謝の気持ちを持ってほしい 友達との会話を楽しんでほしい	○子どもと一緒に祈りをし、食事を楽しむことが出来るようにする ○子どもとの会話に参加することで、より会話がはずむようにする

下線部より、記述者は、食事への感謝の気持ちを持つためには、まず保育者自身が子どもと一緒に

にお祈りをするのが大切であり、子どもが友達と楽しく会話するためには、まず保育者自身が子どもとの会話に参加し、子ども同士の架け橋となることにより雰囲気盛り上げることが重要であることに気づいている。「保育者の意図・願い」を達成するためには、まず子ども達と一緒にいき、子ども達の立場に立つということが重要であるという保育者の姿勢に気づくことができている事例であるといえよう。

(具体的事例C)「自由遊びの場面」 記述日9/6 5歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○好きな遊びをする (バトン 砂遊び かくれんぼ 鬼ごっこ タイヤ 自然物の観察)	遊びの幅を広げてほしい	○試したり工夫したりしている姿を認め、その様子を他の子どもにも知らせ、遊びが広がるようにする ○保育者が遊びを提案し、どのようなルールにするか子どもの共に考え、遊びの幅を広げていけるよう援助する

下線部より、「遊びの幅を広げる」ためには、子ども達が不在で、単に保育者側からの提案だけで広げていくものではなく、「試したり工夫したりしている」子ども達の思いを受容し、「どのようなルールにするか」子ども達と一緒に考えたり、工夫したりして、体験を共有することが必要であるという点が把握できている。

これらABCの事例を通して「保育者の意図・願い」を記述することにより、実習生が子ども達の今の様子をしっかりと観察している姿勢がよくわかる。同時に「保育者の意図・願い」は決して保育者側からだけの思いや希望で決められるものではなく、実際の子どもの様子から考えられるものであるということに気づけたと思われる。また短絡的に「保育者の意図・願い」は達成されるものではなく、その子ども達の立場になって、保育者は色々な配慮・留意点を行なっているということに気づくきっかけになったと考えられる。



② 保育者の表情や言葉、動きを観察し、保育者の意図・願いを読みとることの大切さに気づくことができた事例

保育者は、日々の保育の中で子ども達の思いに寄り添い、より良い成長を常に願い、いかに子ども達にかかわっていくかを絶えず考えている。大沼らは、「次に保育者に求められる姿勢として、保育者が子どもの行動を見守ったり、場面によってかかわったりするとき、そこには保育者の願いが存在する。一人ひとりの子どもの状況に応じた願いを抱き、その願いに沿った対応をして、子どもが自ら成長することを信頼して待つのである」とする<sup>6)</sup>。保育者の小さな言動にも、子どもの成長を思う保育者の「意図・願い」が存在し、すべて意味があるということに気づくことができたかは、観察記録を取る際の重要な要素である。保育者の動きを漠然と観察し、手順の記載に追われるばかりの記録ではなく、このような視点でみることにより、保育者のひとつひとつの行動をなぜ？ どうして？ と考えることができるようになることが求められる。以下に、保育者の表情や言葉、動きをつぶさに観察することで、保育者の意図・願いを読み取るることの大切さに気づくことができたと考えられる事例を挙げる。

(具体的事例D)「登園・朝の挨拶の場面」記述日9/6  
5歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○登園する ・朝の挨拶をする	笑顔で挨拶をする	○子ども達の手本となるような丁寧な挨拶を心がける ○元気よく挨拶をし、その子どもに合わせた言葉を付け加えて、朝から気持ちよく子ども達と接するようになる

下線部より、記述者は、笑顔で挨拶をしてほしいという保育者の意図・願いが、「子どもたちの

手本となるような丁寧な挨拶」や「その子どもに合わせた言葉を付け加える」ことによって示されていることを見て取っている。ひとりひとりの子ども達の朝の様子をしっかりと観察し、声をかけ、共に挨拶するという保育者の行為により、子ども達は生き生きと、笑顔で挨拶するという事に気づけている。保育者の子ども達に対する挨拶の仕方、工夫をみることにより、保育者の意図がどこにあるのか洞察しようという気持ちが伺える。

(具体的事例E)「身の回りの始末・片付けの場面」  
記述日9/4 345歳児

環境構成	幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
使った遊具を自分達で洗えるようホースと洗い台を用意しておく	○片付けをする	友達と協力する  人まかせにせず、最後までやり遂げる	○一つのことを数人の子ども達で片付けるよう呼びかけ、協力できるよう促していく ○自分が使ったものを最後まで片付けず帰ろうとする子どもに対しては、今どうするべきかきちんと話をし、最後までやり遂げることの大切さに気付かせていく

Eの事例より、記述者が、子どもたちに言葉かけをしたり、促したりしている保育者の動きをしっかりと観察し、その背景にある意図を読み取ろうとしている様子が伺える。またそれぞれの子どもの行動に対して、保育者がただ怒っているのではなく、意図を持って指導している様子に気づくことができています。保育者の言葉かけをそのまま記述したり、保育者の行動を見たまま記述したりするのではなく、その内側にある「保育者の意図・願い」に気づくことができています事例といえよう。

(具体的事例F)「自由遊びの場面」 記述日 9/4 5歳児

環境構成	幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
子ども達が歌やダンスを披露出来るようなステージを作ったり、音楽を用意して、より楽しく遊べるような環境構成をする	○いろいろな遊びをする ・歌をうたう ・ダンスを踊る など	思いつき遊びを楽しむ	○一緒に歌をうたったり、声かけをしたりして、遊びの楽しさを共有する

Fの事例より、保育者は、一緒にうたったり、声かけたりすると同時に、ステージを作ったり、音楽を用意したりしている保育者の動きをしっかり観察できている。「思いつき遊びを楽しむ」という意図・願いを達成するために、保育者がいかに色々な配慮・留意点、環境構成を行なっているか、またいかにそのことが大切であるかを気づくことができたことが伺える。

これらDEFの事例を通して、「保育者の意図・願い」を記述することにより、実習生がまず保育者の動きや言葉をしっかり観察しようという姿勢が確認できた。そしてそれを、見たまま、聞いたまま記述するのではなく、その動きにはどんな意図があるのか、その言葉にはどんな思いがあるのか考えるきっかけとなったと思われる。同時に、配慮・留意点・環境構成についても「なぜ」「どうして」と考える様子が見られ、保育における保育者の観察のしかた、見方に深まりがみられてきたと考えられる。

### ③ 保育者の子ども達に対する深い思いを学ぶことができた事例

「保育者の意図・願い」欄を設けた観察記録の記述によって、実習生が、保育者の「意図・願い」を十分に汲み取ることができていたか、あるいは実習生の推察が十分でなかったかが明らかになっ

てくる。そして、実習生の推察が十分でなかった場合に、担任保育者にさらにご指導頂くことにより、保育者としてのより深い思いや考えに気づくことができると考えられる。以下に、これを示すと考えられる事例を挙げる。

(具体的事例G)「登園・朝の挨拶の場面」記述日9/3 5歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○登園する ・朝の挨拶をする	学生=大きな声で挨拶をする 保育者= <u>休み明けのため、保育者や友達との再会の喜びをもって</u> 、大きな声で挨拶をする	学生○笑顔で優しく挨拶をし、子どもの挨拶を引き出していくように配慮する 保育者○笑顔で優しく、 <u>ひとりひとりの顔を見て挨拶をし、園庭まで出迎えて</u> 、子どもの挨拶を引き出していきよう配慮する (下線は保育者の訂正部分)

Gの事例により、記述者は、園庭で子ども達を出迎えている保育者の姿を確認していながらも、その動きから背景にある「意図・願い」に気づくことはできなかつたと考えられる。そこで、休み明けという時期的な事情を考慮し、「再会の喜びをもって」挨拶しているのだという保育者から指導、「意図・願い」欄において、「ひとりひとりの顔を見て挨拶し、園庭まで出迎えて」という加筆によって、保育者の動きの意味を確認することができたと考えられる。

(具体的事例H)「身の回りの始末・片付けの場面」  
記述日9/3 5歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○身の回りの始末をする ・コップ、タオルをかける ・なわとび、雑巾、お帳面を所定の場所へ出す ・制服をかける ・かばんを片付ける	学生=自分で用意をする 保育者= <u>身の回りの始末がひとりでき、習慣として身につけられる</u> ようにする	学生○自分で用意が出来るか確認をし、必要に応じて声をかけ、促していく 保育者○自分で用意が出来るか確認をし、 <u>休み明けで持ち物が多いので始末がしやすいように場を整え、必要に応じて声をかけ、促していく</u> (下線は保育者の訂正部分)

Hの事例より、保育者の加筆により、保育者には、とても細かな配慮が必要であることが、記述者に伝わったと考えられる。ひとりで身の回りの始末をするためには、声をかけ、促すと同時に、「始末がしやすいように場を整え」るなど、目につきづらい部分にまで保育者が環境設定しているということに気づけたと思われる。

(具体的事例1)「弁当・給食の場面」記述日9/6 4歳児

幼児の遊び・活動	保育者の意図・願い	配慮・留意点
○昼食を食べる	お茶をこぼさずに飲む	学生○お茶を飲むときの約束を子ども達に聞き、約束を守れるようにする 保育者○少しのお茶でも大切に扱い、お茶が飲めることに感謝して、こぼさない様に自ら気をつけるように伝え、こぼしても自ら進んで濡れている所を拭けるように指導する (下線は保育者の訂正部分)

Iの事例より、記述者は「お茶をこぼさず飲むという約束を守る」という配慮にしか思いが至っていないが、「お茶をこぼさずに飲む」という意図・願いの中には、「お茶を大切に扱う」「感謝する」というたくさんの保育者の思いが存在していることに、気づけたと思われる。保育者の加筆により、子ども達にももの大切さに気づいて欲しい保育者の気持ちを知ることができたと考えられる。同時に、そのような姿勢が、保育者として大切な姿勢であることを確認できたと考えられる。

これらGHIの事例を通して、「保育者の意図・願い」を記述することにより、保育者にその欄を確認頂くことにより、実習生の考える「意図・願い」と保育者が考える「意図・願い」とに相違があった場合、保育者のご訂正、ご指導により、実習生は保育者の深い意図に気づくことができたと考えられる。また、それを通して保育者の子ども達や日々の保育に対する考えや思いを知り、保育

者と実習生とのコミュニケーションを深める一端となっていることも考えられる。

### 3 まとめ

「保育者の意図・願い」の具体的な記述に関しては、生活の3つの場面(登園・朝の挨拶の場面、身の回りの始末・片付けの場面、弁当・給食の場面)では、具体的な行動に関する「意図・願い」と、経験や取り組みによって得られる心情や希望等なかなか目に見えない形での「意図・願い」の二つに大別することができた。

自由遊びの場面では、個別の事例を観察してそこから読み取ったというよりは、一般的かつ決まり文句的な記述が多くみられた。自由遊びの時間にこそ、子ども達の活動に合わせて臨機応変に対応していく「配慮・留意点」も必要となると思われる。実習生が自由遊びの場面における保育者の「意図・願い」を読み取ることに熟達していない面があるのがその要因となっているのではないだろうか。この点に関しては、今後さらに分析を進めていくとともに、学生全体を対象とした授業や個別指導の折に再度指導をしていくことにしたい。

設定保育の場面では、子ども達の個別の活動に則した詳細で具体的な記述がみられたため、カテゴリー化することは困難であった。しかしながら、詳細で具体的な個々の記述は、それ自体非常に重要な記述であり、設定保育の場面においても「意図・願い」欄の記述により、学生の理解が深まったと考えられる。設定保育の場面に関する記述の事例検討は、別稿に譲ることとしたい。

「保育者の意図・願い」の年齢による差異については、年齢別記述内容の比較によって、実習生が子ども達の発達の様子や状況を観察し、考慮したうえで記述している様子が明らかになった。各年齢で多くみられる項目は、おおむね子ども達の年齢発達に合わせた「意図・願い」が記述されており、「意図・願い」欄の記述が、学生の視点を

深める一助となったと評価できる。

「配慮・留意点・環境構成」欄と「意図・願い」「環境構成」欄との関係に関しては、①子ども達の実際の姿を観察し、子どもの思いに寄り添うことの大切さに気づくことができた②保育者の表情や言葉、動きを観察し、保育者の意図・願いを読みとることの大切さに気づくことができた③保育者の子ども達に対する深い思いを学ぶことができたという3つの側面から、学生の理解が深まっていることが事例の検討を通して明らかになった。

#### 4 おわりに

幼稚園教育実習に参加する実習生が、観察記録のなかに設けた「保育者の意図・願い」欄に記述を行うことで、改めて、保育の流れのなかでの一つひとつの保育者の言葉かけや援助、環境構成のうちに、保育者の教育的な意図が存在していることに気づくことができた。実習生が保育を観察する際の視点として「保育者の意図・願い」という認識枠組みを持たせることによって、観察を深めることが出来たものといえるだろう。以下に、実習日誌に記述されていた「観察で気づいたこと・学んだこと」のなかから2つの事例を取り上げて紹介する。

##### 観察で気づいたこと・学んだこと

今日一日の観察で、子どもの活動や遊びの中に込められた保育者の意図や願いというものの大きさを改めて感じました。私から見て何気ないことにもきちんと意味があって、それが自然と子ども達が身体で学んでいく様子を見ることができて、とても勉強になりました。

##### 観察で気づいたこと・学んだこと

先生方の頭の中には、私の想像がつかない程のねらいや、援助、配慮が考えられているということを改めて強く感じました。先生とお話させて頂いて初めてわかりました。これからは、先生の意図が少しでも分かるよう、しっかり観察させて頂きたいと思います。

このように、保育者のうちにある意図・願いを洞察することによって、実習生は、それまで思い

が至らなかった配慮や留意点、環境構成の内側に存在している保育者の「意図・願い」に気づくことが出来、保育者の意図・願いへの言及を通して、配慮・留意点、環境構成に対する理解がより深められたと言える。さらに、実習生が記述した「意図・願い」を保育者が確認し、読み取れていない部分を加筆してくださったことにより、さらに実習生の理解が深まったものと思われる。

また、観察実習記録の中に、「保育者の意図・願い」の欄を設けることには、実習生の観点を広げ、理解を深めるとともに、実習日誌を読み、指導する立場にある保育者自身の保育に対する思いへの反省の契機ともなり得るという意味において、一定の意義が見出されるものといえてよいであろう。

#### 引用文献

- (1) 和田修二 1995 教育する勇氣 玉川大学出版部 54-56
- (2) 遠藤良江 2004 実習日誌には何を書くのか 相馬和子・中田カヨ子編 実習日誌の書き方 萌文書林 34-38
- (3) 吉村啓子 2005 保育を観る視点を養おう やさしく学べる保育実践ポートフォリオ ミネルヴァ書房 26-32
- (4) 大沼良子・榎沢良彦 2005 子どもの教育と保育の原理 建帛社 131
- (5) 大沼良子・榎沢良彦 2005 子どもの教育と保育の原理 建帛社 131

#### 参考文献

- 文部科学省 1999 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
- 鯨岡峻 2005 エピソード記述入門—実践と質的研究のために 東京大学出版会
- 鯨岡峻・鯨岡和子 2007 保育のためのエピソード記述入門 ミネルヴァ書房
- 文部科学省 平成20年3月28日告示「幼稚園教育要領」
- 小山翔子 2007 幼児理解と保育者の援助理解を深める保育記録に関する研究(Ⅱ)—エピソード記録型実習日誌の効用と課題— 北陸学院短期大学紀要第39号 45-58

# An Experiment of Training Teacher's Writing on Dairy Records taking into consideration of Teacher's Intent and Wish

Osaka Shoin Women's University  
*Naomi ABE & Naoko MURAI*

## ABSTRACT

In dairy life with children preschool teacher always thinks about what is better for this child or these children. In other words preschool teacher always has some educational intent and wish when he or she stands in front of children as a teacher. This intent and wish must be profoundly related to the professionalism of preschool teacher. Therefore for practice teacher it is very important to know that all action for children in the practice of preschool education has some intent and wish. We have been trying that to add the column of educational intent and wish to the training teacher's daily records. The purpose of this study is to examine the effects on the training teacher's understanding of children, significance of teacher's action and teacher's intent and wish by analyzing writing of daily record. We think we could make clear that training teacher becomes aware of the existence of teachers intent and wish in case of writing on this column.

**Key words:** Teacher's intent and wish, Preschool teacher training, Professionalism of preschool teacher, Training teacher's dairy records, Understanding of children